**個別目標**

**２**

**子どもの健やかな成長を支援する**

目標値

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 基準値  2017年度  （平成29年度） | 目標値  2022年度 |
| 乳児死亡率（出生千対）  【図表３参照】 | 2.4（\*１） | 1.9（＊３） |
| １～４歳児の死亡率（当該年齢人口10万対） | 20.5（\*１）  【図表４参照】 | 0（＊４） |
| 子育てに不安感や負担感を感じている保護者の割合 | 52.4％（＊2） | 47.0％（＊５） |
| 人工死産数に占める20歳未満の人工死産割合 | 19.0％（＊1）  【図表５参照】 | 16.1％（＊６） |

（\*１）2015（平成27）年「衛生統計年報」　（\*２）企画政策課　2017（平成29）年「市民意識調査」

（\*３）国の2015（平成27）年　乳児死亡率を目標　（\*４）死亡率ゼロを目標　　（\*５）毎年度１％減少し５年間で５％減少

（\*６）国の2015（平成27）年人工死産数に占める20歳未満の人工死産割合を目標

図表３

資料：衛生統計年報

図表４

図表５

**個別目標２の取組**

●子育てに困った時の相談窓口の周知に努め、随時、相談に対応します。

●乳幼児健康診査の未受診児への受診勧奨、子どもの状況把握を確実に行います。

●乳幼児の死亡を減少するために、事故等の予防啓発に努めます。

●児童生徒が生命の大切さを知り、自分も周りの人も大切と考えることができるように関係機

関と連携した教育に取り組んでいきます。

**【平成30年度の現状】**

・出産したすべての産婦に、母子保健コーディネーターが中心となり『おめでとうコール』を行うことや、姶良地区内の産科医療機関で『退院後支援パンフレット』を配布してもらうことなどで、相談先としての周知が図られてきた。

・乳幼児の健やかな成長のためだけでなく虐待予防の視点からも、乳幼児健診を未受診の児に対しては、地区担当保健師が訪問等を行い、早目に状況を把握するように努めた。

・乳幼児健診等の機会に、事故予防の教育やチラシを配布するなど事故予防に努めた。

・学校教育課や小・中学校の養護教諭代表等の関係者が開催した思春期保健に関する意見交換会に参加し、情報交換を行った。

**【令和元年度の取組】**

・平成30年度の取組を引き続き継続しながら、充実を図っていく。